

令和4年度 学校評価報告書

小樽市立潮見台小学校
校長 加藤 広子

1 本年度の重点目標

主体的に考え、進んで行動する子どもの育成	(目指す姿) ① 自分の善さを自覚し、相手の立場を認めることができる子 ② 学び方を身に付け、進んで学ぶ子 ③ ねばり強くやりぬく子
----------------------	---

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
			評価	取組状況	
1 未来を創る力の育成	確かな学力の育成	学び方を身に付けさせる取組を実施し、家庭学習に取り組む児童を95%以上にする。	A	「潮小ベーシック」をもとに、各学級で統一して学習規律を確認した。家庭学習については、進め方を各学年で発信した。児童アンケートにおいて、家庭学習に取り組む児童は95%であった。	◎
	特別支援教育の充実	コーディネーターを中心に、個別の教育支援計画、指導計画を活用した組織的な指導を実施し、校内支援委員会を6回以上行う。	A	特別支援コーディネーターを中心に校内支援委員会を6回開催し、情報交流を図るとともに、必要に応じてSCや教育相談につなげていった。	◎
	国際理解教育の充実	「外国語活動及び外国語の学習が好き」と回答する児童を90%以上にする。	B	専科教員が授業を行うとともに退職教員等外部人材も活用した。また2・3・4学年でALTを活用した授業を実施した。児童アンケート「外国語の学習が楽しい」の肯定的回答が88%であった。	◎
	理数教育の充実	専科による授業の工夫を実施し、「理科の学習が好き」と回答する児童を90%以上にする。	A	専科教員が授業を行い、実験・考察など専門性を発揮した授業を展開した。児童アンケート「理科の学習は好き」の肯定的回答が93%であった。	◎
	情報教育の充実	ICTの積極的な活用を図り、各自のタブレットについて「活用できた」と回答する児童を100%にする。	B	端末活用推進チーム教員と連携し一人一台端末を効果的に活用した。児童アンケート「クロームブックの使い方が身に付いている」の肯定的回答が97%であった。	◎
	キャリア教育の充実	見学学習や外部講師による授業を全学年で実施し、社会の現実に触れる体験活動を充実させ勤労観を育成する。	A	1学年は水族館、2学年は市立図書館や市場、3学年は警察署や消防署、4学年は札幌市下水道科学館、5学年は小樽港マリーナ見学を実施した。また6学年は外部講師による租税教室を実施したなど、全ての学年で様々な職業とやりがいについて学んだ。	◎
改善方策	家庭学習は多くの児童が取り組んでいるが、(学年×10+10)分間以上取り組んでいる児童の割合は80%程度であった。今後も、分からないことはそのままにせずできるまで繰り返したり、間違えた問題は必ず解き直したりすることに取り組む。また、保護者への啓発を進め、家庭学習習慣の充実・定着を図る。				
学校関係者評価委員による意見	・専科教員による指導のメリットは大きいと思われるので、よりいっそうの充実を望む。 ・国語や算数が好きになる子が増えてほしい。国語や算数の学力向上のためによりいっそうの授業改善に取り組んでほしい。				
2 豊かな心の育成	道徳教育の充実	「自分にはよいところがあると思う」と回答する児童を80%以上にする。	A	児童アンケート「自分にはよいところがある」の肯定的回答が80%であった。	◎
	ふるさと教育の充実	地域の素材や施設、人材を活用した授業を全学年で実施する。	A	4学年は屋形船乗船体験、3学年は勝納川の生き物調べを実施した。また、PTAと連携し、全ての学年を対象に「潮音頭」振り付け練習会を実施するとともに「潮ねりこみ」に参加した。	◎
	読書活動の推進	学年毎に提示する「1年間で読んでほしい20冊」について、全て読む児童を85%以上にする。	A	児童の85%以上が目標を達成した。11月の読書月間では、クラス毎に読書目標を決めて取り組んだ。	◎
	体験活動の推進	ボランティア活動などの体験活動、地域の素材を活用した自然体験活動を全学年で実施する。	A	PTAと連携し、全学年に呼びかけ潮見台中学校と合同で校区内の清掃活動を実施した。また、総合的な学習の時間に、3学年は勝納川、5学年は臨海公園の清掃活動を実施した。	◎
	コミュニケーション能力の育成	言語活動の充実を図る研究授業を全学年で実施する。	A	言語活動の充実を図る国語科の研究を行い、全学級で研究授業を実施した。	◎
	いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	児童アンケートやいじめアンケートを活用した教育相談を2回以上行う。	A	児童アンケート「友だちとなかよく学校生活を送っている」の肯定的回答が98%であった。様々なアンケートや調査を行い、その結果を生かした学級経営交流や反省を2回実施した。	◎
改善方策	今後も、児童理解に努めたり、共感的人間関係を大切にしたりすることで、全ての児童が安心して楽しく通える学校づくりに取り組む。また、地域人材などの活用により、ふるさと教育や体験活動を充実を図る。				
学校関係者評価委員による意見	・校区の穏やかな地域性を活かしながら、より多くの子どもたちが自己肯定感や自尊心をもてるような取り組みを進めてほしい。				

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価	
			評価	取組状況		
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	体力向上改善プランの確実な実施により、「体育の授業や外遊びが好き」と回答する児童を90%以上にする。	A	体力向上改善プランに基づき縄跳び活動の実践を継続した。児童アンケート「体育の授業や外遊びが好き」の肯定的回答が92%であった。	◎
		食育の推進	栄養教諭との連携した取組(食育指導、給食指導)を全学級で実施する。	A	全学年で栄養教諭による食育の授業を実施した。	◎
		健康教育の充実	「いのちの授業」を全学級で実施し、自分や他人の命が大切だと回答する児童を100%にする。	A	全学年で養護教諭による「いのちの学習」を実施した。授業後、「命の大切さを学んだ」と全児童が回答していた。	◎
改善方策	新体力テストの結果分析や生活リズムチェックシートの活用を進めながら、体力・運動能力の向上や基本的な生活習慣の定着を図る。					
学校関係者評価委員による意見	・コロナ禍により低下していると思われる子どもたちの体力や運動能力が向上するような取り組みが大切である。					
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	家庭学習への声かけ、見守りをしていると回答する保護者を87%以上にする。	A	保護者アンケート「家庭学習を働きかけている」の肯定的回答が88%であった。	◎
		学校と地域の連携・協働の推進	「樽っ子サポート事業」を活用した放課後学習や長期休業中の学習会を実施し、1日の平均参加者を20人以上とする。	A	毎週月・火・水・金の放課後や長期休業中に学習会を実施し、1日の平均参加者は、20人以上だった。	◎
改善方策	家庭学習の内容について分かりやすく説明していくなど、保護者への啓発活動を引き続き行い、家庭学習の充実・定着を図る。また、コミュニティスクール導入に向けて、保護者・地域との連携をよりいっそう推進させる。					
学校関係者評価委員による意見	・学校・家庭・地域が丸丸となって学校づくりを進める必要がある。今後も学校・家庭・地域の連携が深まるよう取り組みを進めてほしい。町内会や地域でもいろいろな行事を企画し、子どもたちの参加を呼びかけていきたい。					
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	小中一貫を見据えた取組について小中学校間で交流する機会を3回以上持つ。	A	互いに授業を参観し合ったり、乗り入れ授業(外国語)を行ったりした。また、「教育課程」「学力・体力向上」「生徒指導」の3つの部会に分かれ、情報交流などを行った。	◎
		教育環境の整備・充実	タブレットの活用について基本的なルールを作成し、児童・保護者に周知した上で、守っていると回答する児童を100%にする。	B	児童アンケート「クロームブックはルールを守って使っている」の肯定的回答が99%であった。	◎
		教職員の資質・能力の向上	ICTの活用に向けた研修会を3回以上実施する。	A	端末活用推進チーム教員によるクロームブック活用研修会を1回実施した。また、必要に応じてミニ研修会を3回実施し、教員間で活用の仕方の教え合い・学び合いを行った。	◎
		学校運営の改善	運営組織を生かした職員会議の時間短縮、GS等の活用による効率化により、全職員が時間外勤務を昨年度より縮減させる。	C	会議の議題を精選したり、業務の効率化を図ったりしてきたが、全職員の平均時間外在校等時間は縮減されなかった。(R3年度26.5時間→R4年度27.6時間)	◎
		学校安全教育の充実	外部講師による交通安全教室、情報モラル教室、非行防止教室を実施する。	A	交通安全指導員による交通安全教室を1学年(歩行)と3学年(自転車)で実施した。情報モラル教室を4・5・6学年で実施した。薬物乱用防止教室を5・6学年で実施した。	◎
改善方策	小中一貫教育については、グランドデザインの見直しを含め今年度の活動を振り返り、よりいっそう取組を推進させる。働き方改革については、教職員の負担軽減に向け、ボトムアップとトップダウンの両方の視点で推進する。					
学校関係者評価委員による意見	・コロナ禍で先生方の業務も増えたことと思われる。子どもたちや教職員のために働き方改革をよりいっそう進める必要がある。					
社会教育に関連する目標(目標6～8)		市立図書館、総合博物館をそれぞれ1回以上活用する。	A	生活科や社会科等で図書館、総合博物館を利活用した。出前講座も活用した。	◎	
改善方策	出前講座も含め、今後も社会教育施設を積極的に活用していく。					
学校関係者評価委員による意見	・引き続き、学習内容に照らし合わせながら、校区にある歴史的建造物や公共施設などを積極的に利活用してほしい。					